



一般社団法人 葛力創造舎
したえだ ひろのり
下枝 浩徳さん

故郷の未来のために 葛尾で息づく“結”の精神

平成28年6月に避難指示が解除され、住民の帰還が進みつつある葛尾村。しかし一方で、将来的な人口は震災前の5分の1程度とする試算もあり、過疎によるコミュニティの存続が大きな課題となっています。下枝さんが代表を務める「葛力創造舎」は、そんな葛尾村のより良い未来のために平成24年に設立された団体。現在は学生を含む約10名のメンバーが、商品開発や人材育成など地域に“活力”を生む取り組みを進めています。

「イメージしたのはかつて集落の中にあつた“結”。昔のように密接でなくても、ゆるやかに広がってつながることによって新たな動きが生まれることを目指しています」

地域の方々との関係性を重視する背景にはかつての苦い経験が。震災後に村へ視察ツアーを受

エアレースパイロット室屋義秀さんに、福島県県民栄誉賞を贈りました。

知事
だより

知事の活動を伝えるコーナー!



県民栄誉賞表彰式
(県庁知事室)



表彰状と記念品の大堀相馬焼大皿をお渡ししました

「不可能の反対語は可能ではない、挑戦だ」これは私の好きな言葉ですが、室屋さんはそれを体現してくれました。室屋さんのひたむきに挑戦を続ける姿は福島人の誇り、まさに「ふくしまプライド」であり、たくさんの勇氣、元氣、希望をいただきました。

エアレース世界選手権で、アジア人初となる総合優勝を果たされた室屋義秀さん。震災と原発事故を乗り越えて挑戦を続けられ、見事、世界一となりました。



▲ 郷土料理体験を通じ、県外から視察に訪れた方と村民との交流の場も提供



▲ 葛力創造舎が企画した体験プログラムで製造された日本酒



▲ 「葛力創造塾」と題したセミナーも開催。コミュニケーションやマネジメントを段階的に学んでいく

け入れた際、食事を担当してくれた方から「疲れた」という言葉を聞いてしまったのです。

「そのころの活動はツアー優先で、手伝ってくださる方を顧みることができていませんでした。関わる人が喜べないと地域が良くならない。みんなにとつての幸せとは何かを考えました」

そこで村の内と外の間に自然に“結”のようなつながりが生まれることを目標に、お米作りを開始。平成27年は県内外から約70人の参加者が集まり、田植えから稲刈りまでを行いました。ゆくゆくはこのお米を使ったおせんべいや甘酒などの商品化も予定しています。

「最近では活動に興味を持つてくれる方も増えてきました。葛尾の宝は人。いずれは基金を作って村の方たちがそれぞれに抱く夢を実現できたらと思います」

震災によってほつれてしまった人々の絆を編み直すべく、下枝さんたちの若い力に期待が寄せられています。

国外や県外出身の人から見た福島を知るコーナー。

第4回は、(株)まちもりシオカゼで小名浜のまちづくりに取り組む中井さんです。

汐風竹町通りから小名浜のまちを盛り上げたい!

小名浜には5年前から仕事で来ていました。まちづくりに取り組む方と知り合ううちに自分も関わりたいと思い、昨年7月に移住しました。思っていた以上に気候が良くて過ごしやすいです。

今は汐風竹町通りに人の流れをつくろうと、空き家の活用やポケットパークでのイベントなどを企画しています。自分の住むまちですし、これからも小名浜のまちを盛り上げていきたいですね。



汐風竹町通りにある空き店舗をリノベーション中

外から見た福島のイトコロ教えます

ふくしま

二重マル

小名浜は魚料理も絶品です!

なかい やすし
中井 靖司さん
(愛知県出身)